



この作品は、フィクションです。

実在の団体、人物、事件などに一切関係ありません。



この世には神様や幽霊
というものは
居ないと思う

神様に願って
なにか叶った
記憶はないし、



なあ、
病院で幽霊とか
見たことねえの？
一回も
無いわねえ、
同僚はあるって
言ってたけど

ホラー系は
好きだが、
幽霊なんて一切
見たことがない



あの坊主野郎と
縁が切れますように、

今日中に
出してくれ

ピンピンしてん
じゃねえか



はあ、
終わんねえ

それと、
これ

じゃ、
頼んだぞ

坊主野郎が
毎回量が
多いんだよ

仕事の所為で、
最近全然
抜けてねえし、

あーあ、
この仕事は
終わらせねえと
特にやばいしな。

なんか聴きながら
やるか、

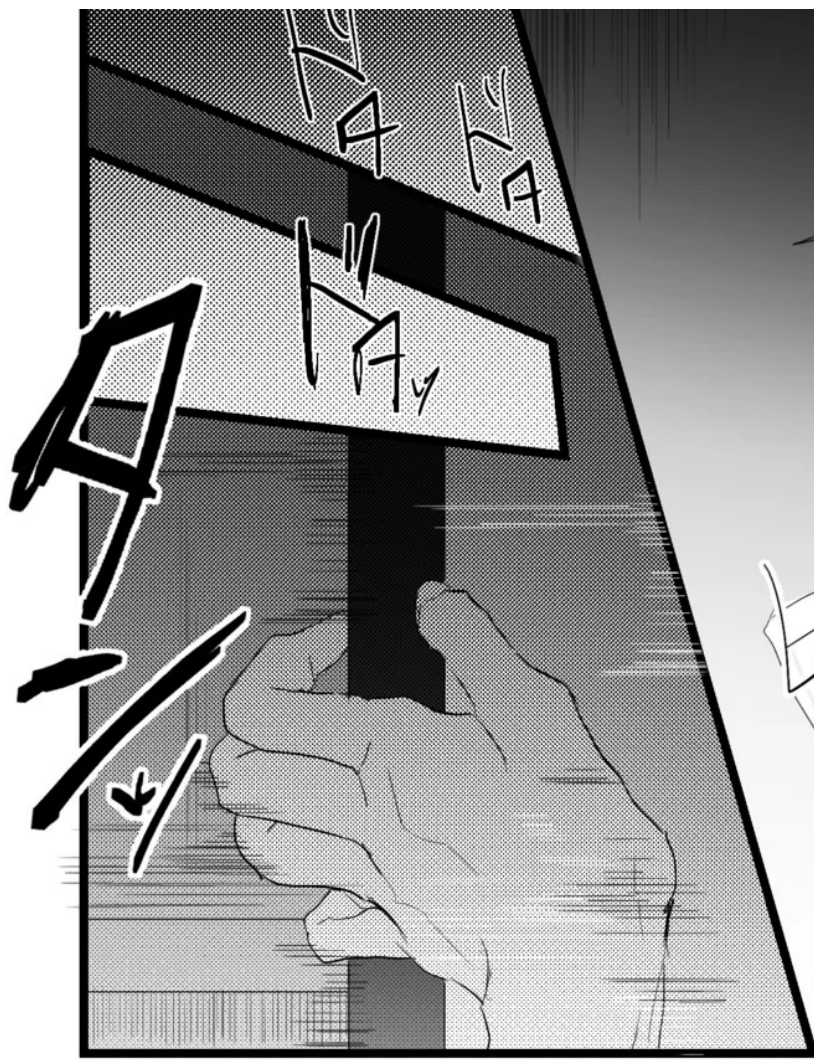
家の周りを
何かがノックを
しながら

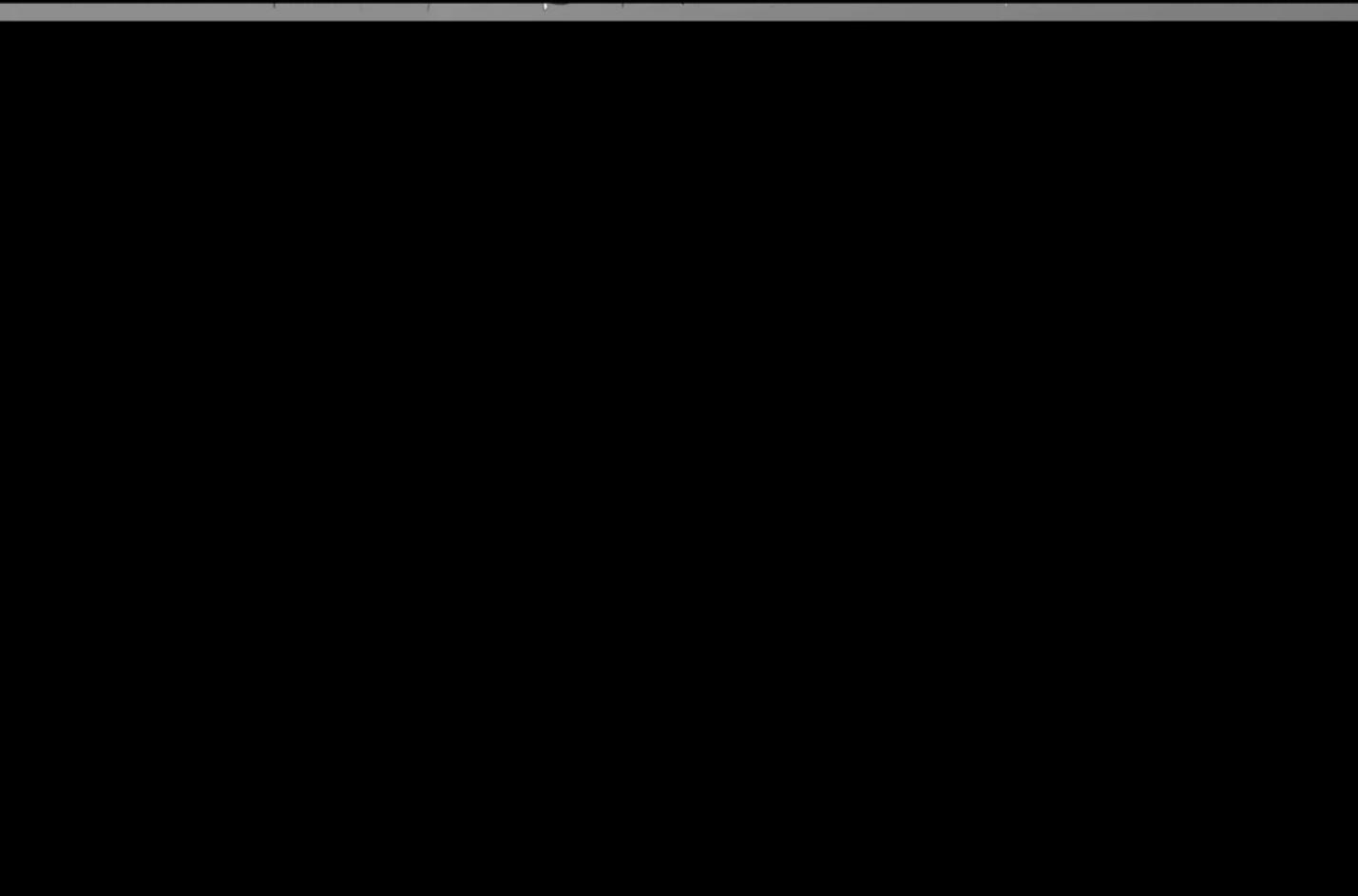
回っているのです。

うおんっ!!

な、
なんだよ







あつ



気絶しねえんだあ、
こういう時って

こういう場合、
気絶して朝を迎える
ってのが定石だろ

お化け屋敷で
気絶したことある俺が、
なんでここで
気絶しねーんだよ

あの時は
恥ずかしかったな

あ、というか
気絶しなかった場合って、
どうなんだ？



ああ、なんか気が狂って
見つかったり？
それか、
死え、え？？？

あ、
やべ、

おれ、死







!?

おまっお前
どこ触ってんだよっ



っ!?

動かな、っ

うっ!

これ、
金縛りか、!?

息が
しずらい、っ







しゃぶられて、
しゃぶられて、

しゃぶられるのって
こんな、

やッ!!

しゃぶられて

しゃぶられて

あッ

あッ

しゃぶられて

クッ

しゃぶられて

しゃぶられて

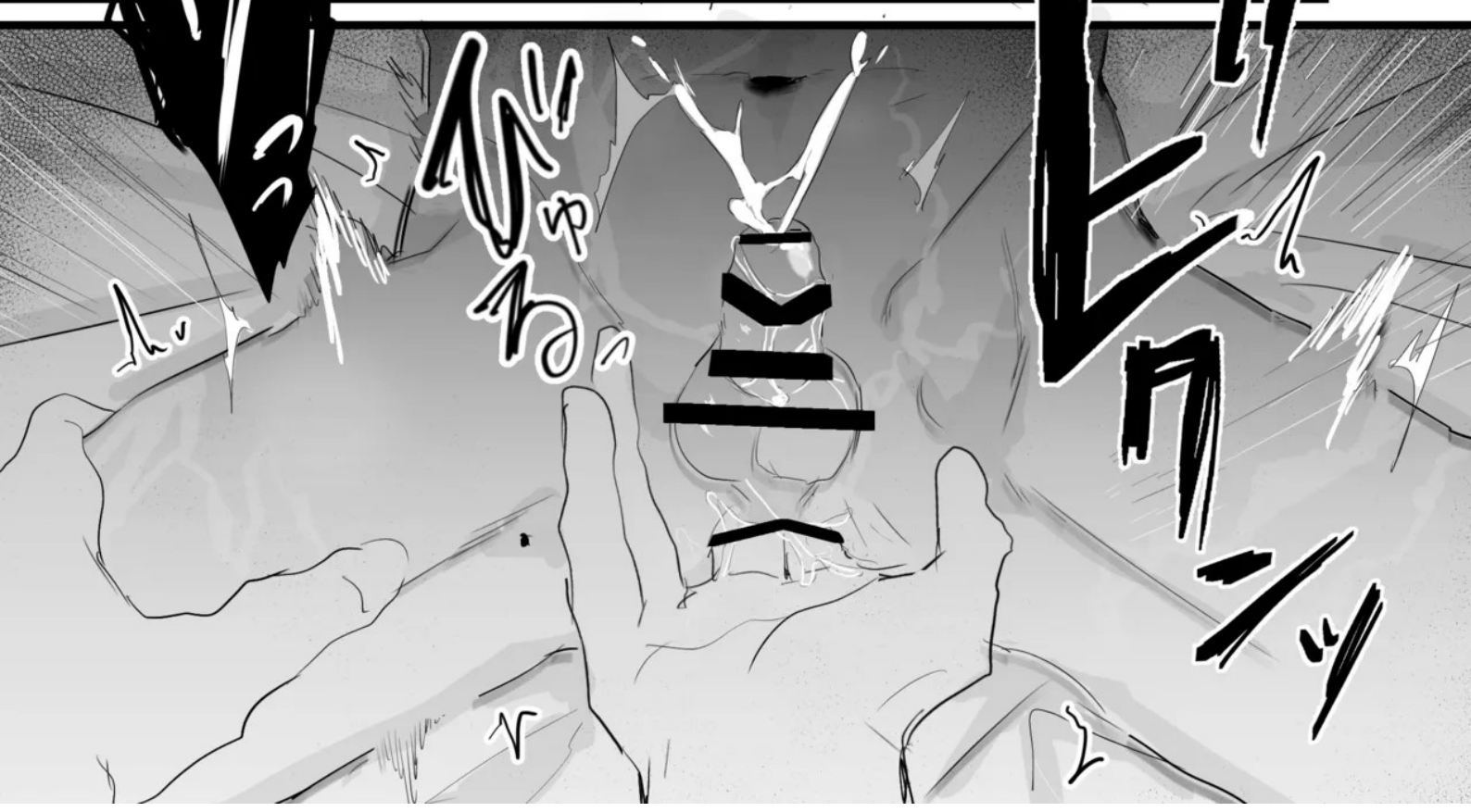
しゃぶられて

しゃぶられて





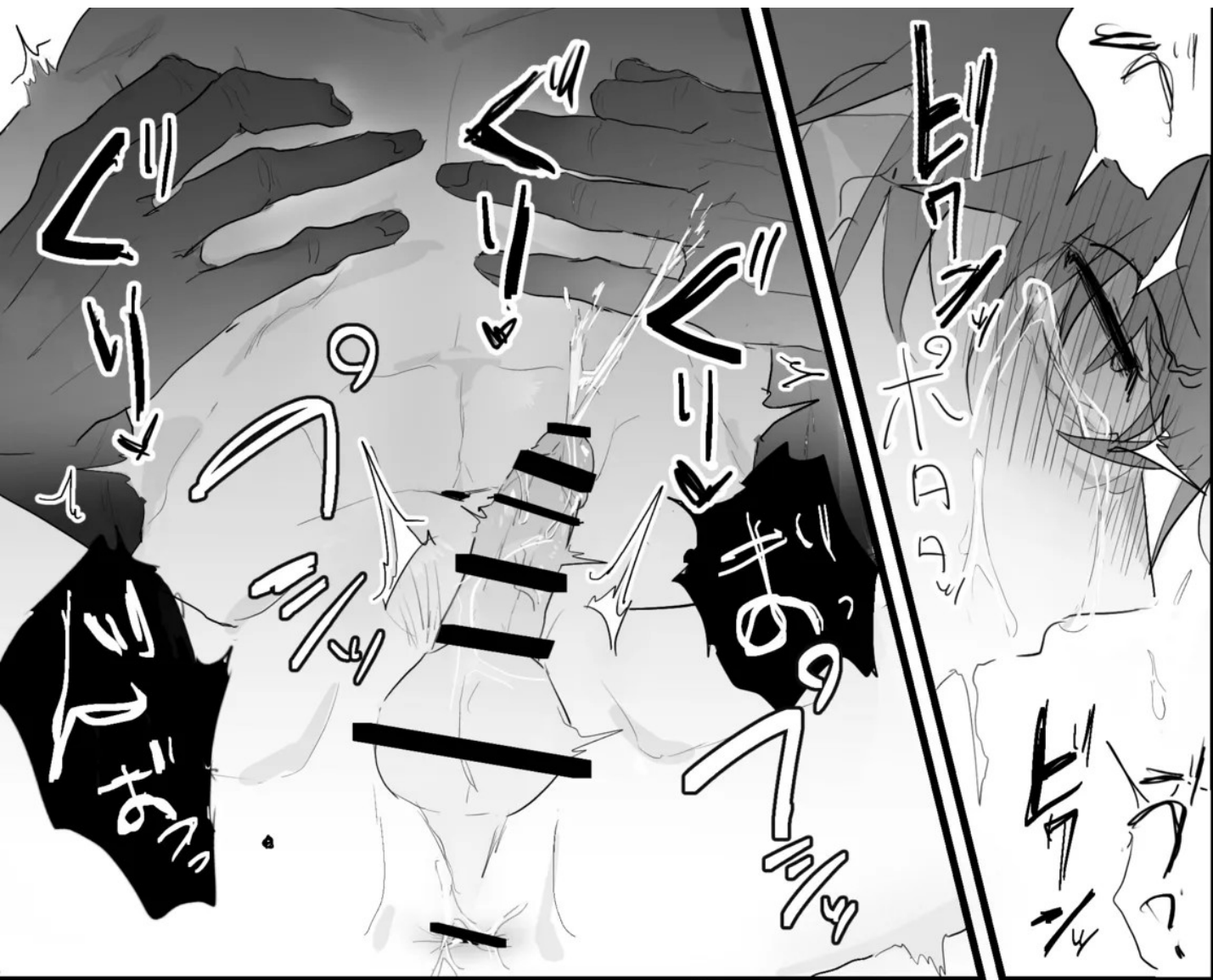




















と、とま、っ！
もうっ
イギだくない

と
や

や
や

いい
いい
ぎだくなッ

ファッ

や
や



腰浮いて、

これ、
やばいところ、
突かれ、

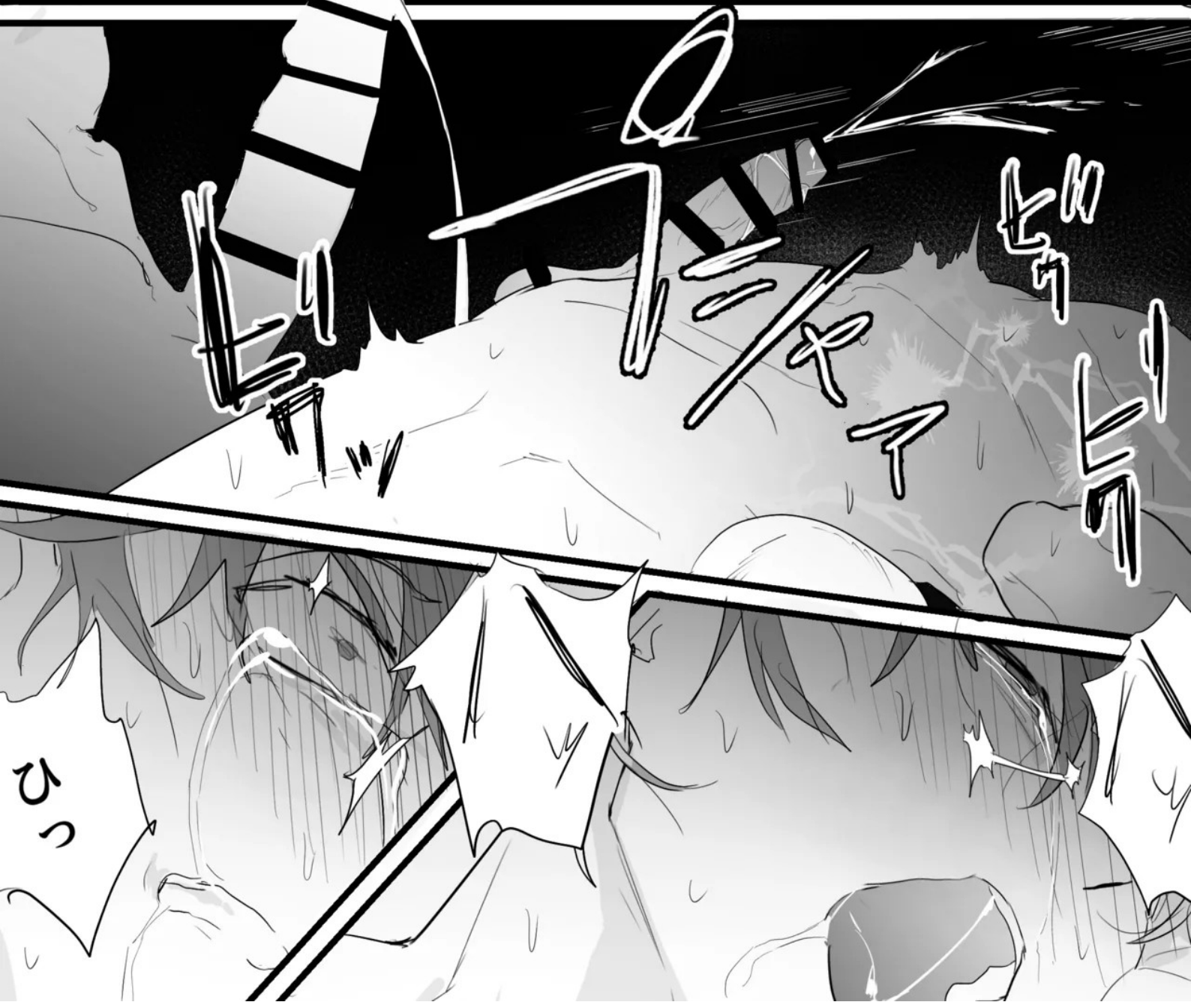
おい、
たぬし、
なまめ、
あー、
やめ、

あー
ぐわ
あー
ぐわ

あー
ぐわ
あー
ぐわ

あー
ぐわ
あー
ぐわ

あー
ぐわ
あー
ぐわ





あつ
やらつ
いっ
わっわかった

やるっ
やるから、っ

俺、に
やらせてくれ、

これ以上
好きにさせたら、

コイツに、

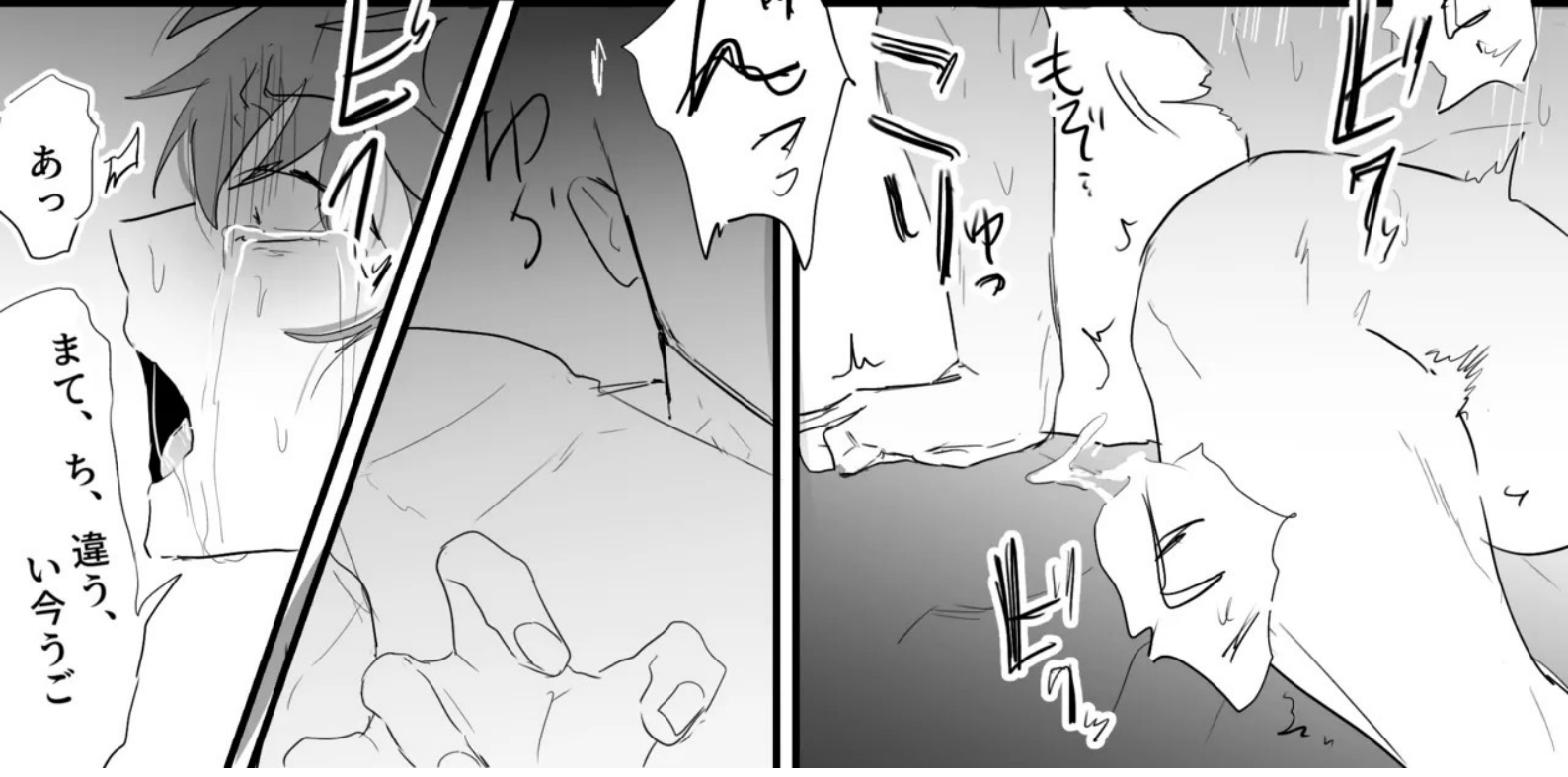
くそッ

だ、めだ、
一旦、抜い

ッ

ッ

っ！





あ、ダメなの、ぐる、

い、いやだ

ちゅ、







おえ

なあ、
頼む、っ

もう、むり、っ
抜いでっ
抜いっ

たのっ
お、おねがいします

おねが、
しゃ

えっ
え

うわ
うわ
うわ

うわ
うわ
うわ

うわ
うわ
うわ

うわ
うわ
うわ

うわ
うわ
うわ

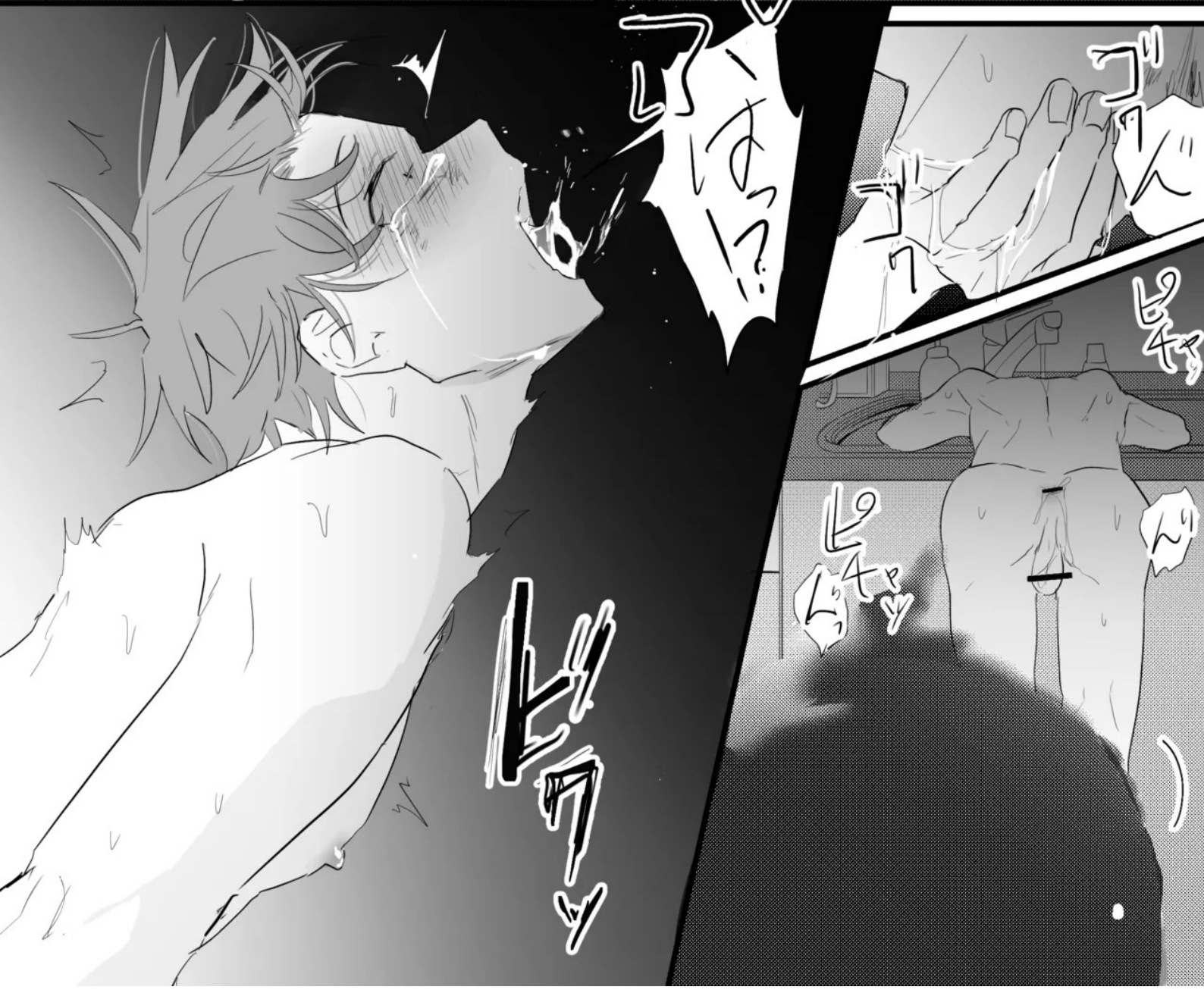














「ふうん」

「願ってもな、」

「いつまで
やってんだ、
ねむい、？」

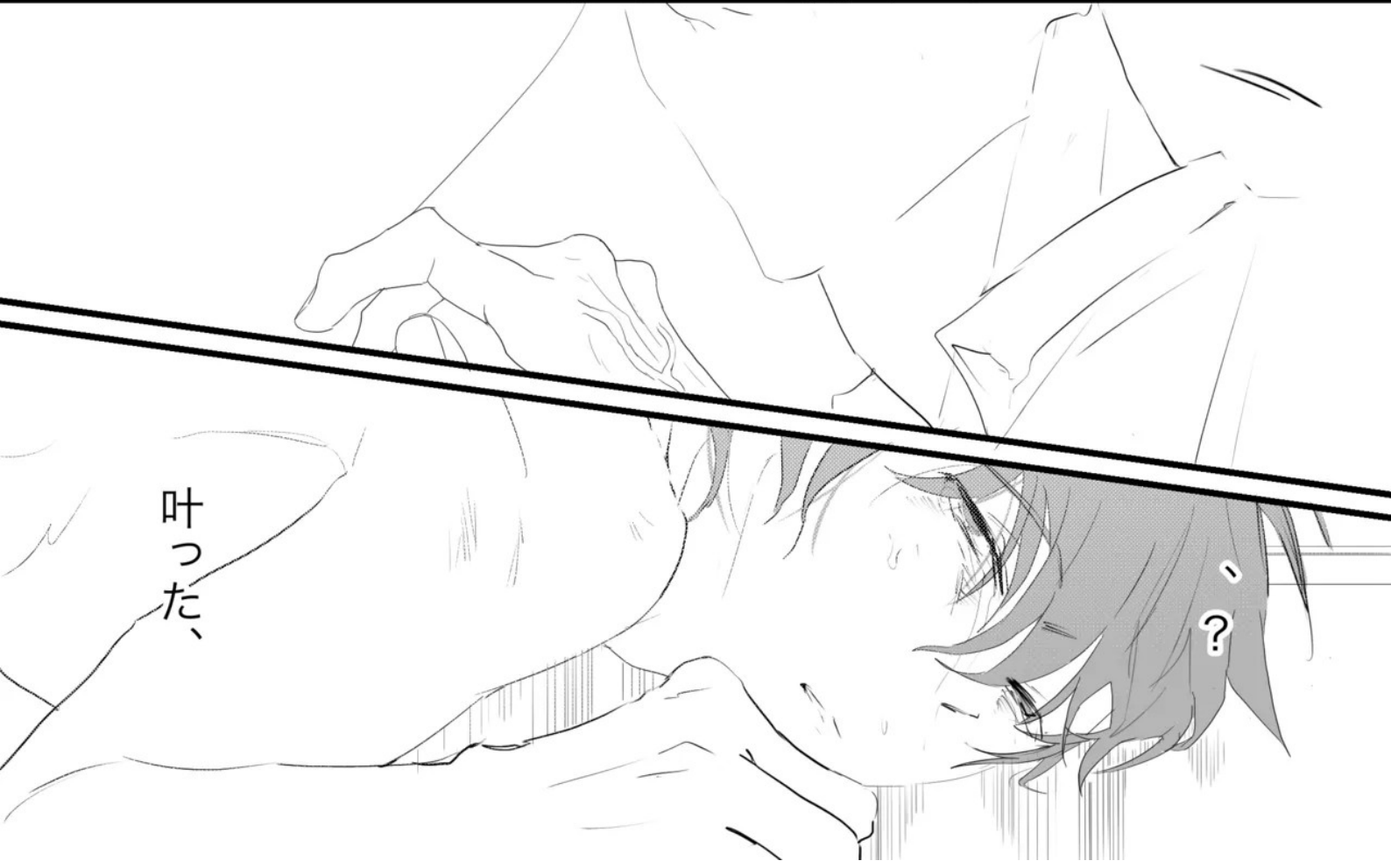
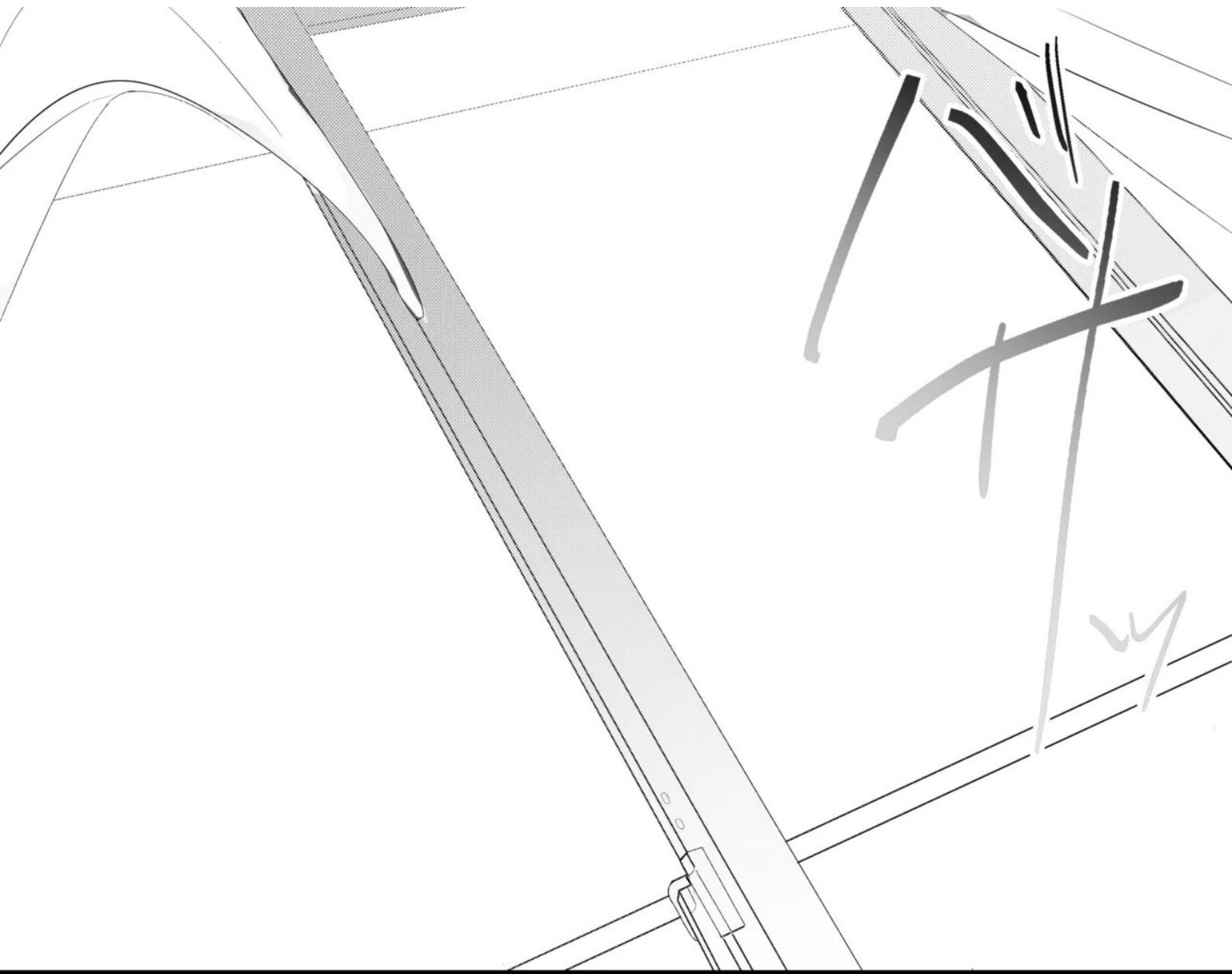
「この眠気、
絶対ねちやダメな
やつだよなあ、」

「でも
終わんねえし、」

「疲れたな、」

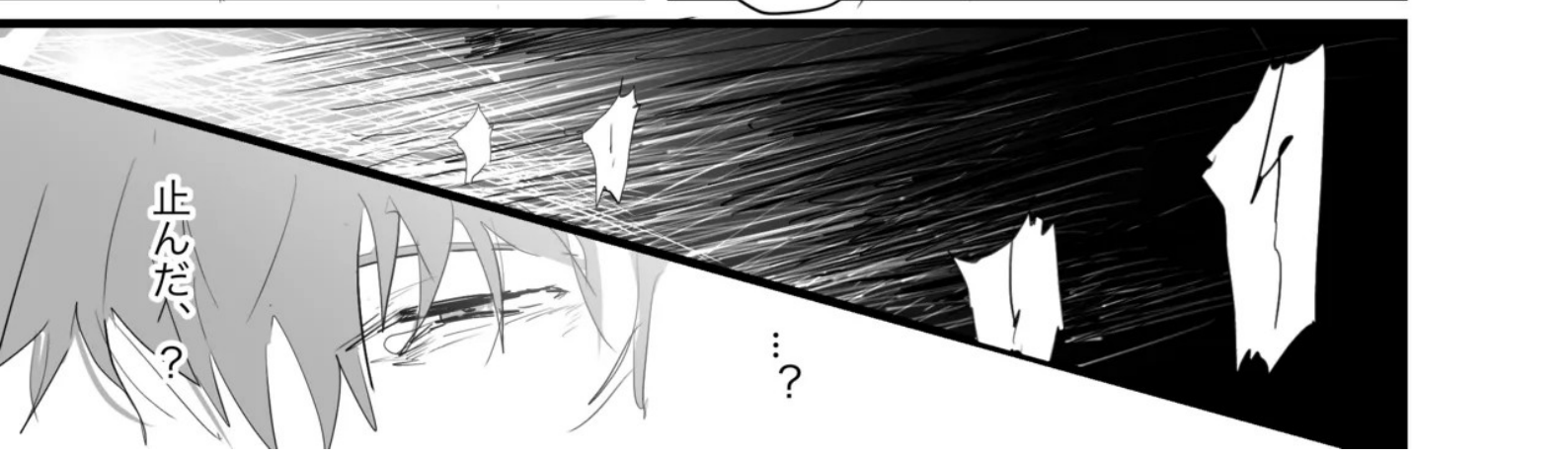


「待て」



叶った、

？





よく頑張ったな、
もう大丈夫だ

危ない、っ

お前、

なんで、



…実は、

ああ、

俺には、
靈感があるんだ、

あの時の噂って、
本当だったんだな

お前が無断欠勤を
したと聞いて

嫌な予感がしたんだ

それで、
お前の家の側まで
来てみたら

とても
セックスが上手い

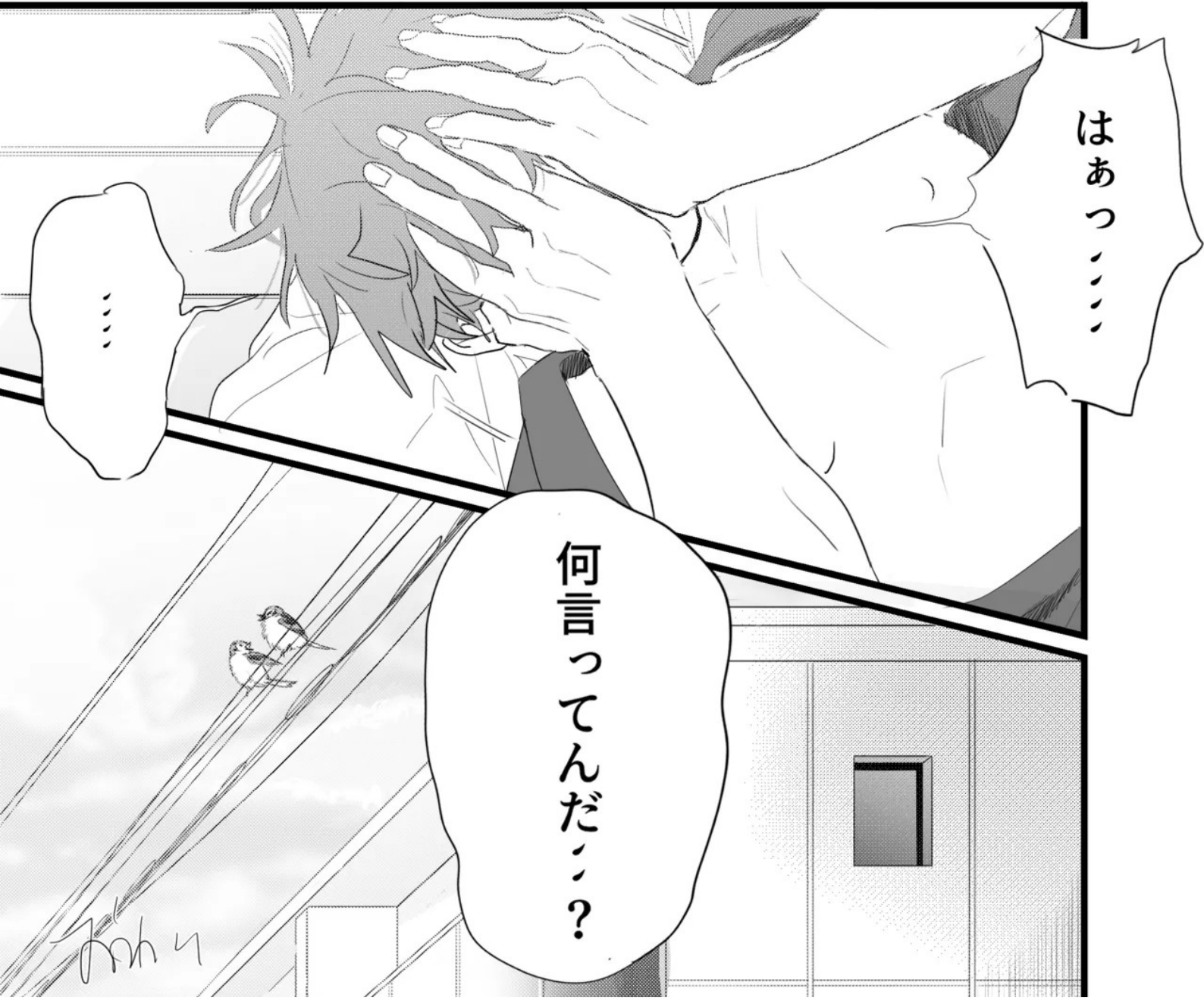
は…

鬼畜テクニシャンな
幽霊の気配がして、

急いで
駆けつけたんだ。

はあっ……

何言ってるんだ…？



おまけ

